

(様式1)

自己評価票

作成日 平成22年5月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家	ユニット名	2号館
所在地	〒300-1214 茨城県牛久市女化町253-2		
自己評価作成日	平成22年 5月30日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員はとにかくご利用者が1日1日を明るく、楽しく過ごせるよう、家事や余暇活動、会話などを通して、ご利用者とふれあいを持っています。自宅でご家族と過ごせない寂しさや老いの辛さなどを分かちあいながら、そのような中でも喜びや新しい発見を感じられるように取り組んでいます。行事や外出会を通して季節の移り変わりを感じていただいたり、社会との交流を図っています。全体的に重度化が進む中で、地区老人会の方々のご協力やボランティアを活用し、施設内での芸能観賞などにも力を入れてきています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の生活歴を把握し、各個人が安心、安全な生活が送れるように配慮するとともに、各個人の主体性を尊重する事をまとめ、職員全員で話し合い作り上げた理念がある。職員間で利用者の情報交換を常に行いながら、理念の実践に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と一緒に近隣の店舗へ食材や備品などの買い物に出かけるようにし、ご利用者が地域で生活している感覚を持てるよう取り組んでいる。自治会に入会しており、地区の老人会などとも交流、情報交換などを行っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティア、見学などを積極的に受け入れ、それらを通して認知症ケアの実態などを伝えている。
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議でのつながりから、ホームにて、老人会の方々による歌や踊りの芸能の発表をして頂いた。地域の方との交流も広がっている。家族アンケートの作成や結果の検討などについても意見を伺い、サービスの向上につなげている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の介護相談員の受け入れや運営推進会議へ参加を頂くなどをして、サービスの実情を伝え、相談・援助などの協力を頂いている。新規の受け入れや退所に際して、高齢福祉課、社会福祉課等と情報交換を行っている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員休憩室、ユニット玄関には身体拘束廃止を宣言するポスターを提示してあり、ご家族や来訪者にもその重要性を理解し、職員はそれを実践している。日中(9:00~16:00)は外につながるベランダや玄関を開放し、戸外へも自由に出入できるように配慮している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通して虐待に関する知識とその考え方などを深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	地域権利擁護事業を利用している利用者もあり、必要と思われる方にはご家族に情報を提供したり、研修を通して、その目的や大切さを学んでいる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や申し込み時に書面をもって重要事項などの説明を行い、また、いつでも閲覧できる場所に掲示していると共に、変更があった際にも同意書を得ている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会の際に要望を伺ったり、苦情受付ボックスの設置、及び家族アンケートの実施等にてご家族の意見を伺っている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常から問題点などを話し合っており、ユニット会議等でも検討を重ねている。起案書の制度もあり、職員の意見を反映できる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の見直し、サークル活動の援助などを通して職員のやる気や福利厚生などの充実を図っている。介護職処遇改善交付金の活用、資格手当などの見直しを行っている。突発的な休暇の希望にも可能な限り対応している。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や知識・技術レベルに合わせた外部研修、毎月実施している内部研修などを通して技術・知識の向上を図っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や市内の事業所職員が集まる協議会などで情報交換を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は本人にとって不安で分からない事ばかり。職員は場面、場面において話をし、気持ちを確かめながらケアにあたり、問題があれば話し合い解決している。会話から情報を引き出し、「その人らしさ」の把握、信頼関係の構築に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学、申し込み、契約、その時々に合わせて、質問や不安な点について伺い、丁寧に説明している。面会時のご利用者状況の説明、質問やご要望等にも個々の職員が対応し、報告と情報の共有がなされ、信頼関係作りに努めている。気持ちよく訪問できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントから食事や排泄、入浴、健康管理など重要なケアについて体制を整えている。入所当初にセンター方式シートをご家族に記入していただき本人の状況の把握とケアについて検討を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ること」「できない事」を一人一人把握する事に努め、それに合わせ、共に食事を作ったり、掃除をしたり、一緒に食事を摂ったり、教えてもらったりしながら、共に生活をしている者同士の関係を築いている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月写真付きで発行している虹の家便りを通して御利用者の状況を報告していると共に、ご要望の把握に努め、理解やご協力を頂きながら御利用者のケアにあたっている。家族会や行事への参加も出来るよう連絡している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別적으로お墓参りや自宅帰宅(仏壇にお花を上げてくる)、以前利用していたデイサービスへ友達に会いに行く、買い物の間に友達のお宅にお邪魔させていただく事などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と合わない方を把握し席替えをしたり、一緒にゲームや家事等をしていただく事で関係を深めたり、ご利用者同士がお互いに理解できるように話をしたり、関わりを持てるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所になっても、面会に行ったり、今後のことについてご家族から相談を受けたりしている。ご利用者同士の関係でも手紙のやりとりなどの支援を行っている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常々職員は、利用者と話をすること、行動パターンの把握に努め、利用者の行動の裏に有る気持ちや思いを考え話し合っている。危険が無ければ見守り、利用者の希望において、少しでもできそうなことがあれば、即、否定することなく、職員話し合い、実現できるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などにご家族に情報シートを渡し記入していただいたり、普段から本人に子供の頃の話や、昔住んでいた場所の話、家族の話、好きなことなどを尋ね、これらの情報の把握に努めている。入所前に利用していたサービス担当者から情報を集め、把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人1日1枚のケース記録を用い、1日の活動状況や会話の内容、新たな発見（できる事・できない事）や健康状態の把握を効率的にできるように工夫している。また、一日一日の状態の変化まで職員は把握している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、臨時的にケース検討会議を開くと共に、変化があれば随時、対応を話し合い連絡帳を用いて細かな対応を統一している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日1枚のケース記録を用い、1日の活動状況や会話の内容、新たな発見（できる事・できない事）や健康状態の把握等を効率的にできるように工夫している。職員が感じた事なども日頃から情報交換が行われている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時的に発生する家族に代わっての受診介助や個別的な郵便物のやりとりなど可能な限り対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の利用者はボランティアなどの協力を得て、以前から通っていた座談会や農協などに通う機会が確保されているが、その他の方は入所前の生活とは関係のない施設近隣のスーパーや施設、地域との関わりにとどまっており不十分かもしれない。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医への受診をすすめ、ご家族での受診介助が困難な場合、今までのかかりつけ医が事業所から遠方であるなどの場合には、ご家族の了承を得、協力病院に転院していただいている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が毎日様子を見に来ており、また、医療連携体制による週1回の訪問看護師の訪問を受けている。その都度、ご利用者の変化や様子を伝え、健康管理や受診に関する助言などを頂いている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、ホームでの日常の様子や認知症に係る情報の提供を行い、入院中は随時面会に行くなど、ご利用者の変化の様子や関係の継続を図り、その中で、退院後の受け入れ態勢を検討するなどを行っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」について予めご家族等に説明しご理解を頂いている。ターミナルケアに於いてはその方の状況やご家族の協力など状況に応じた対応を測ることとしている。ターミナルケアに関する研修を重ね、職員の心構えに関しても充実を図れるよう努めている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルがある。吸引機や酸素の取扱い、心配蘇生法など定期的に研修を行い、実践力の向上に努めている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練等を通して火災通報装置の操作方法、消火器の使用法、避難方法などを学び、実践力の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際は声をかける、トイレなどはさりげなく誘導する、排泄の失敗など自尊心を傷つけ易い事柄は慎重に対応する等、プライバシーへの配慮と共に、本人の訴えは否定せず傾聴する姿勢で臨み、一人ひとりの性格や自分との信頼関係の深さにあった声のかけ方をするなど人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「開かれた質問」「閉じた質問」を使い分け、着る物や食べる物など選択肢を示し、選んでもらったり、「～しませんか」等と本人の意思決定を促す声かけの工夫などを行っている。職員は意思の表出を楽しむように色々と工夫して取り組んでいる。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを把握する事により、また、自己決定の支援を行う事により、その人らしい生活を支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に自宅で着ていた洋服を揃えてもらっており、足りなくなった場合にはその方の趣味に沿う衣類を購入している。その日着る洋服を選んでもらったり、整髪や洗顔の援助を行い身だしなみに配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みに合う様な献立作り、調理の段階から出来る事に合わせ役割を分担し協働して行っている。食事中は会話をするよいチャンスなので昔の事や自分の事を尋ねたり楽しい食事となるように心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのよい、ご利用者が好むような献立を作成している。提供する量は皆同じだが一人ひとりが食べる量を職員は把握している。摂取量が極端に少ない方、むらがある方などは必要に応じて摂取量を記録し、個別に提供。野菜を食べたがらない方に個別に野菜ジュースを購入していただき飲んでもらう等している。尿量と合わせて水分摂取量の確認、調整に配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯のある方には歯磨き、総入れ歯の方にはうがい薬でのうがい、飲んでしまう方にはただの水でうがいをすすめるなどその方の状態に合わせたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分摂取量、排泄間隔の把握、尿意を示す仕草の把握などに努め、出来る限りトイレでの排泄が出来るように努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む献立、水分摂取、運動量に気を付けている。センナ茶は濃度を調整できると共に、水分も同時に取る事ができ、自然な形の便の排泄に役立っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通常、夕方の時間帯に浴室を毎日開いている。希望や体調に合わせ、それ以外の時間にも可能な限り対応している。2日に1回は入浴していただく方針でお誘いするが、無理強いはせず、納得を得ながら入浴していただいている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠のために日中の活動を促したり、疲れた表情や眠そうな様子を見て休息を促したり、生活リズムや体調を整えるものとして配慮している。居室の電気の明るさも個々の好みとし、痰の除去をしたり、不安の訴えに対する話し相手や付き添いを行う。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルの一番初めには現在服用中の薬の説明書が入っており、いつでも直ぐにその方の薬の内容を確認でき、職員はその把握に努めている。薬が変更になったときには、特にその効果や症状の変化について観察、記録して次の受診につなげている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の役割分担やそれぞれの好みや生活習慣に応じた日常の余暇活動（テレビ鑑賞、脳トレ、散歩、買物、畑仕事、個別的な外食・外出、など）を実施している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て、近隣の散歩や買物等にお誘いし、外出の機会を確保している。また、外出会の企画や個別の一時帰宅や遠く離れたご家族への面会等も機会を作っている。今以上に本人の希望に添った援助ができるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を身につけている安心感に配慮し、自己管理の出来る方にはそのようにしていただいている。そのような観点から、紛失の可能性がある方にも、ご家族にその事を了承していただき自己管理をされている方も居る。買物等で個人の物を購入する際には、サイフを渡し、支払いなどの支援を行っている。</p>	
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればそのように対応している。年賀状など慣習のものはそれを勧めたりしている。電話については家族の意向もあり頻繁にはできない状況もある。</p>	
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレや浴室の大きな表札、居室の暖簾など混乱を防ぐ措置、和人形や季節の花、写真などを飾り落ち着きや季節感のある空間づくりをしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや畳みスペースなどで気のあった者同士が居心地良く過ごせるよう配慮している。そのような場面が見られている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の協力を頂きながら、使い慣れた家具を運びいれていただいたり、配置や模様を工夫され、一人ひとり個性ある居室に仕上がっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室内の家具や物品の配置は本人に最も適したようになっている。共用部においても、歩行の妨げや事故の可能性のある部分を廃し、手すりや家具等の配置に配慮している。</p>	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない